

令和元年度12月分 自治医科大学附属病院 事後検証結果報告

- 1 開催日時 令和元年2月17日(月) 14時00分～15時30分
- 2 場所 自治医科大学教育研究棟2階大教室5
- 3 検証医師 間藤教授、新庄医師
- 4 出席者

(1)消防機関

小山消防11名、石橋消防9名、芳賀消防19名、筑西消防3名、宇都宮消防1名

(2)医療機関等

新小山市市民病院 2名 芳賀赤十字病院 1名 精神保健福祉センター 1名  
県南健康福祉センター 1名 小山市役所 1名

- 5 検証内容 CPA及びロード&ゴー全 84件(対象症例5件)  
搬送困難症例対象症例 7件  
精神科症例 7件

【検証結果】

- ① 70歳代男性、一般住宅周囲に組まれた足場(高さ約4m)から墜落し、右側腹部に外構フェンスの支柱(長さ約1m・太さ約3cm×約5cm)が刺さり負傷したものの。接触時、意識JCS1、ショック状態、右側腹部の痛みを訴える。腹腔内出血疑いによりL&Gを宣言する。救出までに時間を要したため、現場にてドクターカーとドッキングし活動した症例。

- ・消防とドクターカーの連携がスムーズにいった症例である。
- ・現場の安全管理を徹底すること。

- ② 60歳代男性、自転車乗っている際、道路から畑に墜落したものの。高さは約1.5m。接触時、初期評価は異常なし。全身観察で四肢麻痺を確認したためL&Gを宣言する。頸部の固定にエクスカラーを使用し、正しく装着できた症例。

- ③ 20歳代女性、橋の上から飛び降りたものの。高さ約10m。接所持、意識レベルJCS300、呼吸有り、橈骨動脈充実、頭部・口腔内・耳から多量の出血がみられる。ショック状態等によりL&Gを宣言する。頸部の固定にエクスカラーを使用し、正しく装着できなかった症例。

- ・②と③ともに、墜落外傷によりエクスカラーを使用し、L&Gとなった症例。エクスカラーを装着するなら適切に装着すること。エクスカラーを適切に装着がで

きないのであれば他の頸椎固定器具を使用する。

・以前、外傷について頸椎カラーは絶対であったが気道、呼吸を障害されるのであれば頸椎カラーは絶対ではない。

- ④ 80歳代男性、小山市内で透析実施後に診察予約を入れていた病院に向かっている途中、意識状態が悪くなり救急要請となったもの。接触時、意識レベルJCSI桁、自力歩行不可能な状態。気分不快を訴える。搬送中に不穏状態となり、病院到着時CPAとなった症例。

・不穏状態となった時には、最悪の事態を考えて活動すること。  
・不穏状態となり、心電図モニターを外してしまったのであれば、AEDパットを装着し、酸素投与を開始するなどをして、CPAに準ずる状態に移行するのを対処できるように準備すること。

- ⑤ 60歳代女性、自転車で転倒後、車と衝突し負傷したもの。接触時、意識レベルJCSⅢ桁、呼吸有り、橈骨微弱。頭部及び顔面の損傷有り。高度意識障害によりL&Gを宣言する。搬送中にショック状態になるが、外傷傷病者への輸液は血液凝固障害及び体温低下を伴うと考え、心停止前静脈路確保を実施しなかった症例。

・外傷傷病者に対するショック輸液は、血液凝固障害や体温低下を伴うこともあり推奨はされてはいないが、実施してはいけないということではない。

・頭部外傷によるショック状態は輸液適応である。判断に迷ったらオンラインで確認すること。

・体温が34℃台と低かったが、1回だけの測定ではなく継続的に測定すること。

#### 【搬送困難症例】

(初診時重症以上で医療機関収容依頼4件以上または現場滞在30分以上)

- ① 70歳代女性、転倒し左大腿部を負傷したもの。接触時、意識レベルJCS1、呼吸18回、脈拍90回、血圧193/102mmHg、体温36.6℃、酸素飽和度94%。病院選定に時間を要した症例。

(現場滞在時間36分、医療機関照会2件)

・活動に問題なし。

- ② 90歳代女性、転倒し右大腿部を負傷したもの。意識清明、呼吸18回、脈拍70回、血圧165/66mmHg、体温36.3℃、酸素飽和度97%。病院選定に時間を要した症例。

(現場滞在時間 33分、医療機関照会 3件)

・活動に問題なし。

- ③ 60歳代男性、重量物を持った際に両大腿部の痺れをおこしたもの。接触時、意識清明、呼吸24回、脈拍80回、血圧128/76mmHg、体温36.5℃、酸素飽和度94%。病院選定に時間を要した症例。

(現場滞在時間 43分、医療機関照会 4件)

・活動問題なし。

- ④ 60歳代男性、同じ部屋で寝ていた妻が夫の異変に気づき救急要請したもの。接触時、CPA状態。病院選定に時間を要した症例。

(現場滞在時間 9分、医療機関照会 4件)

・活動に問題なし。

- ⑤ 60歳代男性、ソファ上で呼吸・意識無しの傷病者を妻が発見したもの。接触時、CPA状態。病院選定に時間を要した症例。

(現場滞在時間 13分、医療機関照会 5件)

・活動に問題なし。

- ⑥ 80歳代女性、練炭を使用し暖を取っていたところ気分不快をおこしたもの。接触時、意識清明、呼吸20回、脈拍86回、血圧123/76mmHg、体温36.0℃、酸素飽和度93%。傷病者数の把握及び現場の安全管理に時間を要したもの。

(現場滞在時間 37分、医療機関照会 2件)

・活動に問題なし。このような事案は、症状と緊急度が相関しないので気をつけること。

・安全管理には十分注意すること。

- ⑦ 80歳代男、伐採した木が左下腿部にあたり負傷したもの。観察結果、左下腿部に約15cm×8cmの開放創を確認する。開放骨折を疑い直近の3次医療機関から病院選定開始、「ショックバイタルではなく、開放骨折のみであればまずは近隣の2次医療機関を選定せよ。また、近隣の2次医療機関が収容不能であれば受入可能」との回答を得る。その後、近隣の2次医療機関、2病院収容依頼するも収容不可との回答。再度、直近3次医療機関(同病院2次対応)に収容依頼し収容可能となった症例。

(現場滞在時間 19分、医療機関照会 4件)

・活動に問題なし。バイタルサインに異常がなく、開放骨折単独であれば2次医療機関でも診察は可能である。診察後転送となってしまう可能性はあるが、必ずしも

「開放骨折＝3次医療機関対応」ではない。

【精神科救急】

- ① 80歳代女性、家族がかかりつけの猿島厚生病院から内科系の検査のため、光南病院への紹介状をもらって帰宅したところ、意識障害をおこしたものの。接触時、意識レベルJCS200、呼吸20回、脈拍137回、血圧95/68mmHg、体温36.0℃、酸素飽和度100%。車内収容後、意識レベルJCS20に改善する。  
(現場滞在時間30分、医療機関照会4件、軽症)
  - ・活動に問題なし。
- ② 30歳代女性、多量に薬物を摂取したものの。接触時、意識清明、呼吸18回、脈拍100回、血圧100/67mmHg、体温36.8℃、酸素飽和度97%。病院で処方された薬を36錠服用し、口渇感を訴える。  
(現場滞在時間43分、医療機関照会1件、軽症)
  - ・活動に問題なし。
- ③ 40歳代男性、気分が落ち着かないため救急要請したものの。接触時、意識清明、呼吸20回、脈拍69回、血圧175/96mmHg、体温36.1℃、酸素飽和度100%。気分が落ち着かず、眠ることができないことを訴える。  
(現場滞在時間16分、医療機関照会1件、軽症)
  - ・活動に問題なし。
- ④ 40歳代女性、精神に異常があり、予約した朝日病院へ連れて行ってほしいとの夫からの救急要請。接触時、意識清明、傷病者と夫が口論している状況。  
(現場滞在時間35分、医療機関照会1件、不搬送)
  - ・活動に問題なし。
- ⑤ 30歳代男性、鎮痛剤20錠服用し、倒れているとの警察からの通報。接触時、意識レベルJCS10、呼吸18回、脈拍103回、血圧132/89mmHg、体温36.3℃、酸素飽和度98%。市販薬(EVE)20錠をお酒と一緒に服用したとのこと。  
(現場滞在時間15分、医療機関照会1件、中等症)
  - ・活動に問題なし。
- ⑥ 40歳代女性、錯乱状態のため夫が救急要請したものの。接触時、意識清明、呼吸18回、脈拍120回、血圧130/68mmHg、体温36.7℃、酸素飽和度98%。

支離滅裂な会話を夫としている状態。

(現場滞在時間 9 7 分、医療機関照会 0 件、不搬送)

・活動に問題なし。

- ⑦ 40 歳代女性、「助けて」と本人からの救急要請後、通信指令課員の呼びかけに  
応答がなくなったもの。接触時、意識レベル JCS 3 0 0、呼吸 1 8 回、脈拍 8 3 回、  
血圧 1 2 2 / 7 7 mmHg、体温 3 6 . 7℃、酸素飽和度 9 8 %。

(現場滞在時間 2 9 分、医療機関照会 1 件、中等症)

・活動に問題なし。なお、④・⑥・⑦については同一人物である。これ以降、この者より救急要請はなし。